



# 栃木県立足利南高等学校 平成 27 年度 総合学科通信 第 3 号

No.43  
(2016/3/24発行)

## 学校長より

足南生よ、才能を磨け

校長 柳沼 倫明

先日卒業式の式辞の中で、私は次のようなことを述べました。「一学期の終業式で、私は皆さんにこんな言葉を投げかけました。『君たちは素晴らしい才能を持っている。しかし、君たちはまだその才能に気づいていない。』と。皆さんは素晴らしい才能を持っています。総合学科発表会でみなさんのすくれた発表を見て、私はそのことを確信しました。発表会をご覧になった学校評議員の一人からも、自分が経営する会社の社員より上手であるとお褒めの言葉をいただきました。」

1年生のライフプラン発表と2年生のミニ課題研究発表は、聞いていてワクワクしてきました。4人の発表者の皆さんは、それぞれの在学中に今回の発表をどのように発展させていくのだろうかと思ったからです。今後どう発展していくかを期待させる発表というのは素晴らしい発表です。

3年生の発表には、感心させられるものが多くありました。しかし、一番感心したのは、プレゼンテーション技術の巧みさです。

私たちは、小学校入学以来ずっとペーパーテストを受けさせられてきました。ペーパーテストで試されるのは、ほとんどが暗記力であり、どれだけ美しい答案用紙であるとか、どれだけ自己アピールがうまいとかは、全く評価されませんでした。（美しい0点の答案用紙とはどんなものなのだろう？）ところが、社会に出てみると、独創性（ほかの人たちとは違った考え方で何かを作り上げる力）とか、分析力（複雑なものごとの成り立ちや他との関連性を簡単な要素に分解して考える力）とか、プレゼンテーション能力（自分の考えを相手にわかりやすくかつ説得力を持って説明する力）とか、協調性といった能力がとても重要になってきます。

今回の発表を見ていて、皆さんがそのような能力に秀でていることが見て取れました。みなさんは、素晴らしい才能を持っています。本校でその才能にさらに磨きを掛けてください。そして、この学校を卒業した後もその才能を磨き続けてください。

## 総合学科発表会

総合学科推進部長 藤谷 知仁

平成28年1月23日（土）に、平成27年度総合学科発表会が開催されました。

発表会では、まず1年生を代表して2名の生徒が、自分の将来の姿、イメージを思い描いて作成した「ライフプラン発表」を行いました。2名の発表は、1年間「産業社会と人間」の授業をしっかりと学習したことが窺える素晴らしい内容のものでした。

次に、2年生を代表して2名の生徒が、自分の興味、関心を持っていることをテーマに設定した「ミニ課題研究発表」を行いました。

2名の発表は、「総合学習Ⅰ」の授業という限られた時間で研究したものとは思えないような中身の濃いものでした。

そして、3年生が「課題研究発表」を行いました。本校総合学科のまとめとして3年間学んできたこと、自分の進路に関することをテーマに設定し、1年かけて研究してきたことを各系列の代表17人が発表しました。また、被服製作をテーマにした生徒たちによる作品発表（ファッションショー）がありました。各発表者とも内容や構成が考えられた資料提示や実演など、分かりやすいプレゼンテーションをしてくれました。

来年度も素晴らしい発表会を提示していければと考えています。



## 講座発表会

学習指導部長 木野 悦子

総合学科発表会の午後の部として、第一体育館とメディアホールの2会場で講座発表会が行われました。第一体育館では、美術・書道・家庭科の作品展示、音楽選択者によるミュージックベル演奏・独唱や合唱・ヴァイオリン合奏、体育選択者によるダンスが上演されました。メディアホールでは、普段の授業から一般の聴講希望者と学んでいる演劇より「おおきな木」という演目で上演されました。

生徒の皆さんは、授業だけではなく、放課後、昼休みも自主的に練習をし、素晴らしい出来でした。また、来賓の方々、生徒の皆さんも楽しそうに見ていました。来年度も今年度以上に素晴らしい発表会にしたいと思っていますので、多くの方々のご来場をお待ちしております。



ステージ発表・展示の様子

## 1学年主任より

「1年を振り返って」 1学年主任 厚木 範之

40期生（総合学科16期生）が入学してから、早いものでもう1年が経ちます。入学式では、真新しい制服に身を包み、緊張した面持ちで着席していた姿が思い出されます。

今では、高校生という自覚を持ち始め、今後の生き方や進路について真剣に考え努力する様子が少しずつですが見られるようになってきました。総合学科である本校は、1年次に「産業社会と人間」という科目を毎週2時間実施してきました。その内容としては、様々な職業について知る職業ガイダンスや系統別進路ガイダンス、自分の進路にあった2、3年次の時間割作成、自分の将来の夢を文章に綴るライフプラン、グループで1つの課題について調べ研究発表を行う修学旅行の事前学習としてのミニ課題研究など、この授業を通して生徒が自分自身をよく見つめ今後の進路について考えてきました。

学年末に「産業社会と人間」についてのアンケートを生徒から取りました。その中で、生徒が答えてくれた意見をいくつか紹介します。「グループワークは、普段接することが少ない他クラスの人と話をするきっかけになった。」「自分の進路について真剣に考えることができた。」「自分の夢や職業について考えるとても大切な時間だと思いました。」「様々な職業や職業観を知ることができた。」「先輩方の話を聞いて、働く上で大切なことを知ることができた。」「自分の進路にきちんと向き合えたと思う。」「時間割作成では、作成した時間割がこれで良かったのかと今でも不安があります。」「就職のことも、進学のことでも知ることが出来たので視野を広げる事ができた。」など、それぞれが自分の将来を考え希望や不安を抱えつつも、真剣に自分自身と向き合えたように感じます。今後は、この総合学科のよさの1つとしての進路を考え行動していく時間を、生徒と教員と一緒に充実させていきます。





## 2 学年主任より

「総合学習Ⅰを振り返って」 2学年主任 野口 徳雄

本校では2年次に総合学習Ⅰを毎週月曜5時間目に行っています。主な学習内容は①ミニ課題研究、②修学旅行事前学習、③進路学習、④3年次の時間割見直し、⑤3年次課題研究テーマ設定等です。

- ① ミニ課題研究・・・1年次の3学期にミニ課題研究として修学旅行に関する沖縄の自然、観光、芸術、生活、食の5つのテーマからグループ研究の形式で行いました。2年次においては個人研究の形式で各自が人文社会、自然科学、芸術・スポーツ、情報、生活デザインの5つの系列に分かれ、興味関心のあるテーマを設定し、新聞、書籍、インターネット等で調べ研究内容をクラス毎で発表しました。
- ② 修学旅行事前学習・・・沖縄への事前学習として、沖縄県の方を招いて、舞踊などの伝統文化や沖縄戦、沖縄の歴史や基地問題などを学びました。
- ③ 進路学習・・・進路ガイダンス、進路講話、スクールインターンシップⅡなどの行事を通して進路について考えを深めることができました。
- ④ 3年次時間割の見直し・・・自分の希望進路を考え、1年次で決めた科目の見直しを行いました。
- ⑤ 3年次課題研究テーマ設定・・・系列の先生方のアドバイスを受けながら3年次の課題研究のテーマを設定しました。

以上、総合学習Ⅰを踏まえ、来年度、毎週木曜日⑤⑥限に行われる課題研究をよりよいものしていきたいと思っています。さらに生徒自身の進路実現に向けて充実した研究活動ができるように努めていきます。

## 3 年間の思い出～担任団より～

1組（主任） 安塚 正史



平成28年3月1日大安吉日。総合学科第14期生184名が、本校を卒業して行きました。お世辞にも立派な学年とは言えませんが、真っ直ぐで正直な生徒達でした。それ故に先生方には大いに迷惑をかけ、様々な場面で多くの先生方に支えて頂いた学年であったと思います。そんなことを生徒達は知ってか知らずか卒業式では、卒業生による合唱曲として「遙か」という曲をプレゼントしてくれました。曲中に「気づけばいつも誰かに支えられ ここまで歩いた だから今度は自分が誰かを支えられるように」と言う歌詞がありました。生徒達が自発的に長時間の合唱練習をして

いたこともあり、精一杯の感謝の気持ちが伝わってきました。うれしくて気がつくとな涙が止まりませんでした。

これから皆さんが歩んでいく道は、決して楽なことばかりではないでしょう。まだまだ、沢山の人の支えがなければ前に進めないことも多いと思います。それでも、自分の力を信じ自信を持って前へと進んで行ってほしいと思います。そしていつかは誰かを支えられるような人になって下さい。総合学科14期生の人生に幸多かれ！！

2組 田崎 遙

平成28年3月1日。3年2組34名、全員そろって卒業式に出席し、ここ足利南高校を巣立って行きました。初めての担任、初めての卒業生。こみ上げる涙は別れを悲しむものではなく、立派に成長した姿を見たうれし涙でした。

高校3年間で振り返り、気づいて欲しいことは「ひとり」で頑張ってきたわけではないということです。これまでもこれからも、困難や試練を乗り越えるのは自分自身ですが、きっとその陰で支えてくれる・応援してくれる人の存在があるはず。反対に、自分が誰かの支えになることもあるはず。自分を大切にしてくれる存在、自分が大切にしたい存在に感謝し、「ひととのつながり」を大切に、あたたかな人生を歩んでいってほしいと思います。みんなと過ごした、喜怒哀楽がたっぷりつまった日々は、私にとって一生忘れられない大切な宝物です。みんなが高校生活を思い出したときに、心があたたかくなる思い出がひとつでもできたなら、と思っています。今後はそれぞれの選んだ道で、自分らしく活躍できることを期待しています。



3組 高野 友博



38期生（総合学科14期生）を3年間担任し、学校行事や日頃の生活、部活動や進路指導など多方面で密接に関わり、さまざまな思い出が脳裏に浮かびます。

卒業式間際、3年生に「先生、寂しい？」とよく聞かれました。当然、寂しい気持ちや別れを惜しむ思いはありますが、それにも増して嬉しい思いや3年生のこれからを期待する気持ちの方が強いです。あの子たちは、人生の1つの節目を終え、これから自分自身による選択と責任がより増し、自分の努力次第でチャンスが広がる道が開けているのです。3年間見守ってきた担任としてこれを喜ばずにはいられませんし、また、人生を半ば過ぎた人間として羨ましくも思います。

卒業生には、「好きなことは誰でも努力できる。でも、自分の夢をかなえるために、嫌いなことや苦手なことにも目を背けず、現実を見つめ、正面から努力してください。」という言葉を送りました。卒業生だけでなく、在校生にもこの言葉を贈ります。

4組 田村 渉



2016年3月1日、足利南高校総合学科14期生184名卒業。自分の教員人生二度目の卒業生は、春の嵐のような強い風が吹き荒れる中、巣立って行きました。思い起こせば二年前、自分は三学年の担任をしていました。初の卒業生を送り出した余韻に浸る間もなく新二学年担任のオファーがあり、途中からではありましたが、この学年の担任を受け持つことになりました。クラスの生徒からすれば、クラスも授業も担任も、すべて新しいことばかりで不安も多かったのではないかと思います。しかし生徒たちは、そんな不安を言葉や態度に出すことなく、寧ろこちらの期待に応えようと、日々努力し成長してくれました。今思えば、そんな途中参加の担任を温かく迎え入れ、心を開いて接してくれた生徒ひとりひとりの人間性に救われたのだと、感謝の気持ちに堪えません。平穏無事な二年間だったとは決して言えない嵐のような二年間でしたが、今となってはそれらすべてが良い思い出です。最高の時間を、どうもありがとう。

5組 浅間 和子

平成28年3月1日、足利南高等学校総合学科14期生は、多くの方々に支えられながら卒業の日を迎え、184名の生徒が立派に巣立って行きました。

入学当初はまだ幼かった生徒たちは、3年という月日の中で様々のことを経験し、心身ともに成長を遂げてきました。一人ひとり卒業証書を受け取る姿にその成長を感じ感慨深いものがありました。そしてその成長に関わることでできたことに喜びと感謝を感じています。

生徒たちは、この三年間で経験した様々なことを通して、自ら考え行動することを学びました。つい誰かに頼ってしまっていた彼らが自分たちだけで作り上げた卒業の歌は、彼らの成長そのものであり、忘れることのできない思い出です。

この先、長い人生の中でたくさんの壁にぶつかると思います。そのときにはここで過ごした日々を思い出し、立派に成長した自分に自信を持ち、一つひとつ乗り越えていってください。そして、今まで支えてくれた人への感謝を忘れず、更に成長していってください。皆さんの活躍を期待しています。



発行：栃木県立足利南高等学校  
TEL：0284-72-3119（事務室）  
TEL：0284-72-3118（職員室）

教務部広報係  
FAX：0284-73-2772